中央発條陸上競技部

Challengers

March
2024 . 3
Vol . 9

■【特集】 スペシャル対談

今年にかけるチームの思い

新チームの展望とは？

３人による熱いクロストーク

新副主将
橋本崚

新副主将
樋口大介

「再起への覚悟」

新主将
冨田直樹

■【連載】～Another History～

冨田直樹の
軌跡を辿る

これまでの
苦悩と成長

＜立春特別企画＞

ランニングシューズのご紹介

「BROOKS」

選手も愛用！

ぜひ最後まで一読ください！

チームが強くなった
そのキャプテンが
自分であれるように
「 覚悟 」は決まった

～【特集】新体制　スペシャル対談　～

僕たちはもっとできる
やりすぎなんてない
その「 マインド 」を
チームに広げたい

「 駅伝 」のことだけを
365日、考えて
最後のチャンスを
全力で駆け抜けたい

INTERVIEW

２０２４年、チームに変革が求められる。
選ばれし、３名がチームへの熱い思いを語り合った。

▲ 本社・応接室にて　左から　橋本 / 冨田 / 樋口

インタビュアー ： 堀 正人

「チームの意識を変えていきたい」

ー本日はよろしくお願いします。主将・副主将となり、チームを牽引する立場となりましたが、任命された現在の心境を教えてください。

冨田　はじめは驚きました。口下手なので自分は主将らしくないなと。でも監督から頼まれたことは素直に嬉しかったですし、やるからにはチームを変えていきたいと思っています。

橋本　僕は正直、今年度の成績から来期の契約更新が厳しいと思っていました。移籍選手として結果を求められる立場でしたが、これまでに経験のない大舞台の連戦もあって、難しいシーズンを過ごしました。中発にきて何も残せていないことへの悔しさがあり、もう一度チャンスが欲しいと思っていた時に、副主将のお話をいただきました。本当に感謝しかありません。今年は駅伝だけを考えて、最後チームのために全力を尽くしたいです。

樋口　役職をいただけることは期待されているからこそだと思うので、とても光栄でした。高校時も副主将を務めたことがあるので、その経験も活かしていけたらと思います。

ーチームで誰が主将になりそうだというのは選手の中ではありましたか？

樋口　正直、僕が主将に選ばれると思っていました（笑）。でも自身の競技との両立はかなり難しいとも思っていました。僕は自分と向き合う時間が多く、チームに目を向けることができていませんでしたから。将来的に主将という立場に自信を持って立てるように、今年は先輩２人をサポートしつつ、行動を学んでいきたいです。まずは練習の時に声をかけるなど、小さなことから始めていこうと思っています。

ーありがとうございます。冨田選手、橋本選手もご自身の役割について、どのように考えていますか？

冨田　昨年は「主将なし」の体制で、みんなでチームを作っていかなければならない中、個々のレベルアップに集中してしまった結果、チームとしての軸が定まりませんでした。選手の間から「こういうチームにしたい」という主体性が必要です。今まで前に立つことに対して敬遠してしまっていたので、僕自身も変わらなければいけないと思っています。僕を中心に選手たちの中から「チームを変えていこう」「このチームで勝ちたい」というマインドを作っていきたいです。

橋本　僕の場合は、生活面で見本になることが大きな役割だと思っています。まず、寮でのルール管理や清掃など、基本的な部分からできていないところを改善していく。また陸上部は暗いイメージがあるので、社員の方々に対するあいさつやコミュニケーションも積極的にとっていきたいですね。もっと明るく元気な姿を見せられるように率先してやっていく。小さなことから「今年の陸上部、変わったな」と言ってもらえるのがベストだと思います。

冨田　橋本さんには昨年に引き続き、面倒見の良い先輩を期待しています！

橋本　もちろん一番は、走りでチームを引っ張っていくことですが、今僕にしかできないプラスアルファの仕事をチームのためにしたいと思っています。

「橋本さんは
おしゃべり
好きです（笑）」

「あとは本当に
陸上愛を感じます」

「過去の経験談など
とても参考になります」

「食事の時も隣なので
たくさんお話し
しますよね（笑）」

「ちょっとしゃべりすぎて
二人の負担に
なってない？（笑）」

▲ お互いをどう思っているかを聞かれ、照れながら話す３人

「弱みを強みにできるかが今年の鍵を握る」

ー現在のチームの状況について知りたいです。選手たちから見る、チームの特徴を教えてください。

樋口　端的に言うと「向上心が足りない」のが現状です。このチーム（中発）の中なら陸上について考えて、しっかりやっている方だと自分自身、時々思ってしまうことがあります。でもそれは良くなくて、駅伝上位チームの選手でさえも現状に満足せず、まだやるべきことがあると思って取り組んでいます。だからこそ僕らレベルがやりすぎているとか考えすぎているということは、絶対にありえない。僕たちにはまだまだやるべきことがたくさんあるし、やっていかなきゃいけないことがあります。

橋本　僕自身、移籍選手として新しい空気を吹き込むことが求められていましたが、結果、チームの色に染まってしまったと思います。「やっていたつもり」になっていたことを、今年は「これだけやってきたんだ」という大きな自信に変えていきたいです。

樋口　そうですね。みんな頑張っていると思います。でもまだまだ人並みの頑張り。実業団選手として走っている以上、もっともっとできると思います。自分自身はもちろん、他の選手たちもプロ意識を高めていきたいです。

冨田　僕はチームの特徴と言われると、ちょっと困っちゃいますね（笑）。選手の個性がないというか・・・。

ー逆に個性がないのが特徴なのでは？

冨田　なるほど。確かにそうですね（笑）。中発の良さは、素直な選手が多いところですが、昨年はそこが弱さになっていたと思います。今年はその弱みを強みに変えたいです。同じ目標に向かって進んでいく。まとまる力は他のチームよりあると思っています。

橋本　前チームは個性が強かったですね（笑）。今のチームは優しい子が多いと思います。

冨田　そうですね。だからまとまる部分はすんなりいくと思うので、逆に同じ目標に向かう中で、個々の特性を伸ばし、チーム力の厚みを出せると駅伝でも戦えるチームになると思います。だからこそ、今年の僕たちの役割は大きいですね。

樋口　冨田さん。それはこの前、僕が話した「ワンピースのようなチーム」のことですか？（笑）

冨田　そうそう（笑）。みんなの力を集結して、今年こそニューイヤー駅伝で勝ちたいね。

ーこれからチームが楽しみですね。今年は3人がチームをまとめていくと思いますが、それぞれに期待しているところを教えてください。

橋本　冨田と樋口は本当にバランスがいいんです。マイペースなところときっちりしているところの切り替えが競技に活きていると思います。みんなの見本となり、自信を持って堂々と引っ張っていってほしいですね。

樋口　橋本さんは僕たちの見たことのない世界を経験してきて、そういった実体験やトップ選手の取り組みなどのお話をしてくれます。すごく刺激を受けますし、とても参考になります。コミュニケーションも頻繁にとってくれるので、そういったところを継続してやっていってほしいです。冨田さんは気遣いの神です。優しすぎますね（笑）。見守るタイプだと思いますが、これからは選手たちへの会話を増やしていってほしいですね。

冨田　それは樋口もですね（笑）。もっと周りに興味を持って、みんなに声をかけてほしいです。何も言わずに自分で行動できるので、背中で見せる部分にも期待してます。橋本さんには、僕たちのバックアップをお願いして

▲ 週１回、チームの状況確認を含めたトップミーティングを実施している

います。年長者で経験も豊富ですし、しっかりと意見を言える。僕たちの欠点をフォローしてもらえると助かります。さらに橋本さんの言動から学び、主将として成長していきたいと思っています。

ー3人ともがキーマンですね。心から応援しています。最後に、主将・副主将としての決意をお願いします。

橋本　今まではマラソン中心で、個人レースが主戦場でしたが、今年は駅伝しか考えていません。チームがお正月に結果を残すため365日、気持ちを込めて日々過ごしていきたいと思っています。今年で実業団8年目、これまでの全てをこのチームに注ぎます。練習でも生活でも責任を持ってチームを引っ張っていきたいです。あとプラスアルファで、寮の美化にも努めたいと思います（笑）。

樋口　僕は今まで以上に結果を出してチームに火をつけるのが目標です。口下手なので、自分にできることは走って結果を残すことだと思っています。もちろん、昨年よりもみんなとの会話を意識しますが、まずは結果を出して背中でチームを引っ張っていきたいです。「樋口がこれだけ走れるなら自分たちも絶対できる」と思ってもらいたいですね。全員で結果を出すぞと言えるように、結果にこだわって取り組んでいきます。

冨田　「今年の中発は強くなった」そう思ってもらえるようなチームを作っていきたいです。自分が主将の時にチームが強くなれたら、きっと人生においてかけがえのない財産になると思います。チームを成長させることがマストになりますが、まずは自分自身が成長することです。まだ自分の中の主将像が定まっていません。自分が目指す主将像を日々、考え追い求め続けたいと思っています。その先に目標達成の未来が待っていると信じて突き進むのみです。

ーありがとうございました。新たに3名の柱を据えて新チームがスタートします。社員の皆さん、今年も陸上部への温かいご声援の程、よろしくお願いいたします。シーズン初戦は、4月6日（土）中京大学豊田キャンパスにて開催されます「中京大土曜競技会　5000m」に参加予定です。たくさんの応援よろしくお願いいたします。

「今年こそは駅伝で勝ちたい」

▲ 2024年　ニューイヤー駅伝　3区を走る橋本

▲ 2021年　中部実業団駅伝　樋口から冨田へ襷リレー　　樋口 区間3位、冨田 区間3位と共に好走した

（撮影：原口雄二さん）

PROFILE

1997年8月25日生まれ。滋賀県出身。
身長166cm　体重54kg　AB型
草津東高校 → 龍谷大学

尊敬する人：大迫傑
趣味：テレビ鑑賞
自分の武器：レースをまとめる力
陸上とは：生活の一部
目標：駅伝でチーム目標を達成する

冨田直樹

Tomita Naoki

人事総務部
本社・総務

2020年入社

「感謝の気持ちと負けない心」

▪自己記録

5000m	13分49秒54
10000m	28分34秒77
ハーフマラソン	1時間02分32秒
マラソン	2時間16分31秒

▪主な戦績

2019年	全日本大学駅伝	10位
2021年	中部実業団駅伝	3位
2023年	中部実業団駅伝	4位
2024年	ニューイヤー駅伝	29位

（撮影：原口雄二さん）

～Another History～

×

心で走る新主将

プロローグ

昨今、実業団に進む選手のほとんどは、箱根駅伝を目指し、関東の強豪校で揉まれ、厳しい争いの中、生き残ってきた猛者たち。そのルートとは、真逆の方向から実業団へと歩みを進めた選手が中発の新主将「冨田直樹」だ。関西の大学出身の彼には、過去に輝かしい実績はない。それでも地道に努力をし続け、今では5000m、10000mで中発歴代5位の記録を打ち立てるまでに成長した。中発に入社し今年で5年目。ここでは大学から現在に至るまで、冨田直樹の過去を紐解いていく。

無名のランナーが実業団の道へ

冨田の高校時代は目立った実績がなく、関東の大学に進学しようとしても強豪校へは行けない状況だった。それなら地元の関西でのびのびと競技をしようと龍谷大学に進学。当時は、関西から全国へといった大きな目標はなく、実業団への道も頭にはなかったという。ただ陸上と向き合う真剣な気持ちは強かった。「関西の大学でも頑張れば、強くなれると思っていました。下級生の頃は、まだ実力もなかったので、シンプルに部活の仲間と陸上を頑張りたいという思いで走っていました」と振り返る。周りや環境に惑わされず、真摯に競技と向き合う冨田らしい言葉だ。

大学時代は大学1年目から毎年着実に自己記録を伸ばしていった。そして大学2年の終わりには初めて10000m29分台に。「その頃から実業団への道を意識し始めました」3年生になると採用してもらえる実業団を探したが、29分台といってもまだまだ力的には物足りない。目を向けてくれる会社は、なかなか見つからなかった。そんな中、大学の監督の計らいもあり、中発陸上部を紹介してもえた。「運がよかったです」と冨田。チームが新体制になることも重なり、3年の終わりに中央発條での実業団の道が決まった。実業団でチャレンジできる嬉しさがあった一方で、「もっと強くならないといけない」という実業団で戦う大きな覚悟を持つことができたという。その覚悟は、大学4年目の競技実績に繋がった。

全国の舞台で堂々の走り

大学4年目を冨田はこう振り返る。「全日本大学駅伝で関東の大学の選手たちに勝てたのが自信になりました。入社前に初めての全国の舞台を経験できたことは大きかったです。沿道や周りの人たち

からたくさんの応援してもらえて本当に力になりました。この大会を経験できたことで、よりニューイヤー駅伝で活躍したい思いが強くなったと思います」

入学当初は大きな目標はなかった冨田だったが、目の前にある一つ一つの目標をクリアして、大学4年間で大きく成長できた。

▲ 全日本大学駅伝で快走する冨田

幾度の苦難を乗り越えた1年目

実業団1年目も冨田のスタイルは変わらない。まずは「駅伝のメンバーにはいるぞ、先輩たちに食らいつくぞ」目の前にある目標に向かって全力で取り組んでいった。

しかし、初めは大学とは比べ物にならない練習の量と質に苦しめられる。さらに貧血症状も重なり、思うように走れない日々が続いた。「最初は30k走もできませんでした。貧血もあの頃が一番ひどくてスピードも全く出せなくて・・・。この時期が一番きつかったですね。でも実業団でやっている以上、弱音は吐けません。やぱりお金をもらって走らせてもらっているので。その責任感があったからこそがんばれたのかもしれません」

前半シーズンは苦しんだものの、夏頃には先輩たちと同等の練習ができるようになってきた。

「苦しんだ分、しっかり結果もついてきたので頑張れました。できなかった練習ができるようになっていき、自然と走れるようになってきました」夏を越え、秋のシーズンには自己ベストを連発した。5000mで13分台。10000mで28分台の好記録。駅伝に向けてもチームの戦力として、充分な実績を作れた。

▲ 初めて13分台を出した冨田（1年目）

突如の不調で駅伝出走を逃す

苦難を乗り越えて、軌道に乗ったかと思ったが、再び試練が立ちはだかった。迎えた駅伝シーズン、中部駅伝、ニューイヤー駅伝ともに冨田の出走はなかった。秋のトラックで好走したもののその後、慢性疲労や貧血症状の再発により、練習がこなせずメンバー落ちしてしまったのだ。「駅伝を目標に頑張っていただけに、本当に悔しかったです。年間通して走れないといけない。そのためにはもっと努力が必要だと感じました。来年は絶対に走るんだと駅伝に対する思いがさらに強くなりました」

悔しさをバネに飛躍の2年目

2年目も1年目と同じようにがむしゃらに練習に打ち込んだ。1年目の悔しさは、冨田の力に変わった。春先のトラックでいきなりの自己ベスト。中発歴代5位の好記録となる13分49秒をマーク。5月の中部選手権でも13分49秒で走り、その成長を実感した。「駅伝を走れなかった悔しさはもちろん、後輩に同じぐらいの力の樋口、瀬戸が入ってくれたのも大きかったです。一緒に切磋琢磨できる存在で、より練習も頑張ることができました」

そして2年目はそのままの勢いで中部駅伝はメンバー入りを果たした。実業団での初めての駅伝は5区を任された。「無我夢中で走りました」とレースを振り返る。結果は区間3位。外国人選手を抜くと、2013年の鈴木柊成さん以来、8年ぶりの区間上位の走りだった。また後輩の樋口、瀬戸も区間3位と好走。チームメイト同士で高め合ってきた成果が駅伝の結果に表れた。

本戦のニューイヤー駅伝では力を発揮することができず、区間33位に沈んだが、2月のハーフマラソンでは自己ベストを大幅更新するなど、2年目は、選手として大きく成長する1年間だった。1年目にできなかった「年間通して走り切ること」ができたのも冨田が地道に努力してきたからこそだ。

▲ 5月の中部実業団　13分49秒の好タイム

安定感の裏にある監督の支え

「3年目からはこれまでと違ったきつさがありました。1、2年目は練習こそ大変で苦しいこともありましたが、必死に食らいつき、一生懸命に取り組んでいたら自然と結果もついてきまし

▲ 大阪マラソンに出場した冨田（2年目）

きました。しかし、3年目からは伸び悩みました。貧血症状が定期的に出てしまったり、コロナや故障もあったりで、練習も継続して組み立てることができませんでした」

そんな中、苦しむ冨田を救ってくれたのは佐藤監督だったという。貧血に関しては、毎月病院に通い、血液検査で状態を確認。一緒にディスカッションをしながら改善方法を探ったり、状態によって練習メニューを調整したりする中で、血液の数値も安定するようになってきた。また故障期間も、献身的にサポートしてくれた。「他のメンバーの練習を見た後に僕の故障メニューに付き合ってくれました。監督がサポートしてくださったおかげで、故障期間でもバイクトレーニングでしっかり追い込むことができて、復帰の回復も速かったです。考え悩む機会が増えましたが、いつでも相談を聞いてくれて、真剣に向き合ってくれる監督の存在が僕の大きな支えでした。4年目も苦しい期間はありましたが、年間通して練習も継続できるようになり、レースでも安定感は出せるようになりました。記録こそ物足りなさはありますが、成長は感じています。監督と一緒に頑張ってきて良かったです」今年は勝負の年。監督と共に大きく飛躍をしてくれるはずだ。

▲ 監督とのツーショット（右：佐藤雄治監督）

佐藤監督は２０２０年入社。冨田と同時期に中発陸上部へ。コーチ時代から４年間共に歩んできた

17年間、成長し続ける男

ここまで多くの苦難を乗り越えてきた冨田は、一体どのような思いで、走り続けていたのだろうか。この疑問を問うと冨田はこのように答えてくれた。「自分でいうのは恥ずかしいですが、自分に限界を感じたことがないんです。僕はまだまだいける。ここで終わる気がしない。だからこそどんなに苦しくても頑張れます。伸び悩んだ時期もありましたが、振り返ると陸上始めた小学生から何かしらの種目で、毎年自己ベストを更新しているんです。タイムが一番の指標となるので、毎年成長できているを実感します。だからこそ自信があるんだと思います。今年も自己ベスト更新はもちろんですが、全種目更新するのが目標です」安定感はついてきたからこそ次のステージに行きたいと冨田はいう。今年はインパクトのある走りと記録更新に期待したい。

★ 年度別シーズンベスト推移

年度	所属	5000m	10000m	ハーフ
19	龍谷大学	14分10秒72	29分52秒67	1時間05秒46秒
20	中央発條	13分52秒99	28分56秒41	1時間05秒09秒
21	中央発條	**13分49秒54** **中発歴代5位**	28分53秒32	**1時間02秒32秒** **中発歴代4位**
22	中央発條	13分59秒32	28分50秒07	1時間04分54秒
23	中央発條	14分00秒11	**28分34秒77** **中発歴代5位**	1時間03分55秒

※太文字は自己ベスト

「駅伝で結果を残すことが恩返し」

感謝の気持ちで走り続ける

最後に中発への思いを聞いた。「もう感謝の気持ちしかないですね。取ってもらったところからスタートして、今も恩返ししたいという思いで競技をしています。会社の皆さんもニューイヤー駅伝の結果を一番期待されていると思います。僕自身もニューイヤー駅伝で結果を残したいです。駅伝で結果を残すことが一番の恩返しですから。年々、その思いは強くなっています」普段は落ち着いた静かな人柄だが、心の中には中発に対する熱い思いがある。今後の目標は「駅伝で頼られる選手になること」だ。

今年は主将という立場となり、チームの顔となる。「プレッシャーはあります。でも中発といえば、冨田と言ってもらえるように存在感をだしていきたいですね」と話す。

「冨田の好きな言葉は「感謝の気持ちと負けない心」中発への感謝の気持ちと、どんな困難にも負けない心で、これからの中発陸上部を牽引してくれるはずだ。冨田と陸上部の成長に期待したい。

▲ １番悔しいレースと話す３年目の中部駅伝の様子

春からランニング始めてみませんか？

BROOKS

～ランニングシューズのご紹介～

アメリカ生まれの人気ランニングシューズ

「ＢＲＯＯＫＳ」

RUN HAPPYを合言葉に、快適なランニングで毎日の幸せを提供したい

中発選手も着用！

町田選手

冨田選

サイモン選手

今年の春は
新しいシューズを履いて
気持ちよく走りませんか？
ランのある生活は
きっとあななの人生を
豊かにしてくれる
ハッピーに走ろう！

公式サイトから
ランニングシューズを
チェック！

QRコードからでも
可能です

BROOKS ブルックス公式通販（brooksrunning.co.jp）

CHUHATSU 2024
~ Photo gallery ~

Challengers

Challengers

中央発條陸上競技部